

# 天プラの挑戦

平松正顕(東京大学) & tenpla.net

## Abstract

私たち天プラ(天文学とプラネタリウム)は、天文学の楽しみをより多くの方に感じてもらうことを目的に、様々な活動を展開している。ここでは、私たちの活動理念と実績を紹介する。

## Basic Concept Design

天文学はとても身近な学問である。空を見上げれば、そこには宇宙が広がっている。しかし、あまりにも身近すぎて逆にその存在に、面白さに気づきにくいのもまた事実である。そこで私たちは、天文学の面白さをより多くの方に知っていただき、ともに天文学を楽しんでいくことを目的に、この活動を開始した。

## External Force

この活動に当たって我々が意識したのは、科学の世界に浸っているものだけでなく、より多くの「分野外」の方の協力を仰ぐことである。教育系、芸術系、さらには地域の市民との間にも協力関係を築き上げることによって、よりニーズに合致し、長期にわたり持続可能かつ大きな実績を挙げる可能性を持った活動を展開することができる。この協力関係を推し進めることにより、「科学を楽しむ」という文化を自然な形で醸成できると私たちは考えている。

## Project:ATP

天文学を日常生活に持ち込むには？  
トイレットペーパー紙面に天文情報を印刷することにより、**多大なインパクト**とともに天文への興味を喚起することが可能になった。大手の新聞、科学誌Science、Yahoo! Japan他各種ウェブサイトに掲載され、大きな反響を呼んだ。現在は科学館ショップ20店舗ほどで販売しており、およそ**2万個の販売実績**がある。天文学の裾野をより広げることにより一定の貢献を果たしたと言える。



supported by 日産科学振興財団

## Project:HOSPITAL

「天文学をすべての人に」を合言葉に、天文関係の施設を訪れるのが困難な方々への**出張天文教室**を行った。東京医科歯科大学の小児病棟を訪問し、入院中の子供達に対して、天文シミュレーションソフトによる宇宙旅行体験や自由質問タイムを通して天文学と触れ合う機会を創出した。また、病室を出られない子供に対しては、個別に病室を訪問し、**ニーズに合わせた対応**が可能であった。今後、北里大学病院でも同様の活動を予定している。

supported by 平成基礎科学財団 & 東京大学素粒子物理国際研究センター

## Project:LOCAL

科学普及活動を、科学に携わる人間で閉じたものから**市民の中での活動**に移していく事を主眼に活動するプロジェクトである。具体的には、地域で活動するNPO団体などと協力し、**地域密着型**の天文普及活動を行っている。**小学校の天文クラブ**設立と運営の請け負いや、地域の幼児を持つ父母のための**託児つき天文教室**などを開催してきた。これにより、地域の力を生かした無理のない継続的な活動を行うことができ、**市民が科学を楽しむというライフスタイル**を構築することを指している。

supported by 日産科学振興財団

## Project:KARUTA

天文学の様々な事柄を読み込んだカルタを作製。子供でも遊べる親しみやすいイラストを配し、遊びながら**最先端の天文学**に触れることにより、天文学への親しみと興味を呼び起こす。さらに裏面に詳細な解説を掲載することで、**興味と知識のレベルに応じた遊び**を可能にした。市販名刺用紙のフォーマットで作成しウェブサイトで**無料配布中**。



info@tenpla.net  
www.tenpla.net

## Project:CAFE

天プラでも、様々なサイエンスカフェを企画実行してきた。小さなレストランで開催した**観客10数名のアットホーム**なものから、総勢**150名強の大規模なもの**まで経験した。天プラ式サイエンスカフェの特徴としては、**スタッフを大量に動員**することによって来場者との会話を活性化させるという点が挙げられる。天プラがこれまで行ってきたサイエンスカフェの詳細は、**サイエンスカフェ・フォーラムのポスター**を参照のこと。



## BaseProject:TENPLAML

天プラの活動の重要な基盤は、天プラ・メーリングリストである。現在、全国各地および日本以外の3カ国から200名を超える参加者を擁し、その内訳は学生が86名、科学館関係者が43名、残りは研究者、学校教員その他社会人である。参加資格は天文学および科学の普及に関心があること、その一点である。メンバーはこのMLを通じて情報や意見を交換し、様々な活動の基盤としている。新たな活動を企画する人は、天プラMLで参加者を募り、専用MLを立ち上げて新たなプロジェクトの設立となる。各プロジェクトは活動報告を天プラMLにフィードバックし、ノウハウの蓄積を図る。

天プラでは、ここに示した以外にも、podcastや天文学を題材にした様々なグッズ開発のプロジェクトが進行中である。今後も、これまでの科学コミュニケーションの枠組みに囚われない、斬新で効果的な活動を展開していく予定である。



And More...